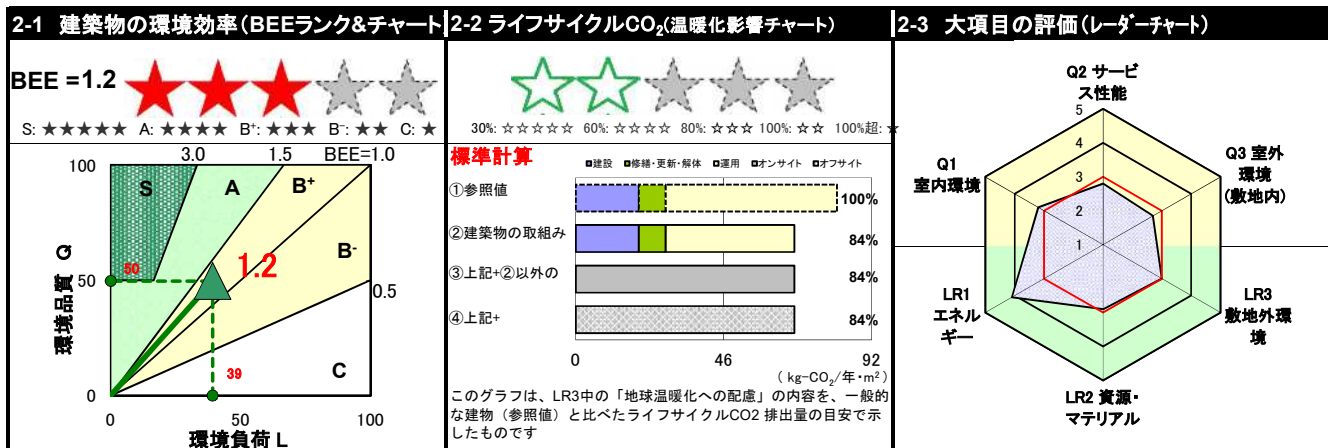


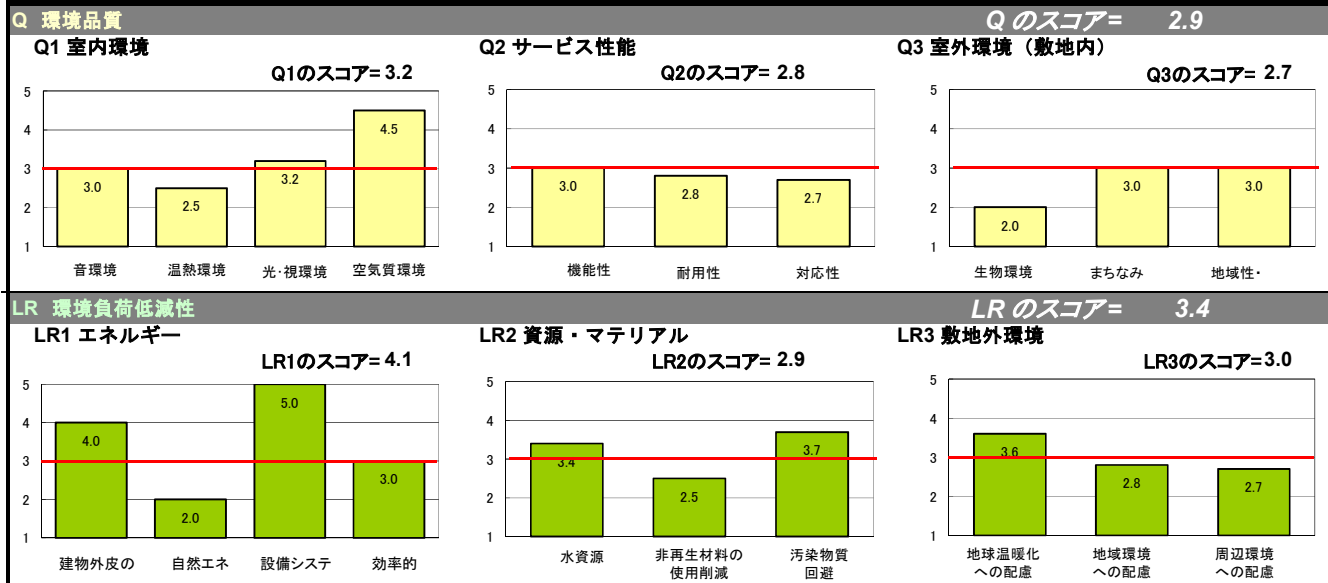
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24031

建築物名称	(仮称)Evergreen新築工事
建築主	大谷 節子
建築物の所在地	川崎市多摩区登戸2083-7 他14筆の全部若しくは一部
設計者氏名、建築士事務所名	弓良 一雄 株式会社ユミラ建築設計室 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,248.35㎡
用途	共同住宅、物品販売業を営む店舗、自動車車庫、自転車駐車場
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上10階、地下1階
工事完了予定年月	令和8年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要				1-2 外観	24031
建物名称	(仮称)Evergreen新築工事	階数	地上10F地下1F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	川崎市多摩区登戸2083-7 地14筆の全部若しくは一部	構造	RC造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	134 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年8月23日		
敷地面積	665 m ²	作成者	伊元久雄		
建築面積	352 m ²	確認日	2024年8月23日		
延床面積	3,428 m ²	確認者	弓良一雄		



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例に適合している。 北側は、周囲の賑わいを意識して店舗開口を大きく確保。南側は周囲の住環境に対し緑地を配し良好な環境を形成する。 空地率を47%確保し、屋根の17%を緑化した。	2.3/4.3	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	敷地の一部を車路とし、周辺への通風を確保した。屋上の一部緑化を図った。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.2
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	開口部はLow-Eガラスを使用する。 居室の開口はできるだけ大きく設けた。 全ての窓はバルコニーや庇があり、カーテンレールを設置した。	2.1/2.7	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例に適合している。 空地率を47%確保し、屋根の17%を緑化した。	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住戸平均Ua=0.63 計画上可能な住宅は、2方に窓を設け、通風を確保。 BEI=0.64 賃貸住宅入居者のすべてに機器の取扱説明書を配布し、効率的な運用を促す。	4.1/5.0	4.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水型機器を使用。 発泡断熱材の発泡剤は、HFO ODP=0,GWP=1を使用。空調機は新冷媒R32を使用。	2.7/4.7	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	敷地の一部を車路とし、周辺への通風を確保した。屋上の一部緑化を図った。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要設備機器の更新必要間隔を20年とした。	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水型機器を使用。	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	住民用駐輪場、駐車場を確保。	0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例に適合している。 空地率を47%確保し、屋根の17%を緑化した。	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住戸平均Ua=0.63 計画上可能な住宅は、2方に窓を設け、通風を確保。 BEI=0.64 賃貸住宅入居者のすべてに機器の取扱説明書を配布し、効率的な運用を促す。	4.1/5.0	4.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	計画上可能な住宅は、2方に窓を設け、通風を確保。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 3.1

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住戸平均Ua=0.63 計画上可能な住宅は、2方に窓を設け、通風を確保。 BEI=0.64 賃貸住宅入居者のすべてに機器の取扱説明書を配布し、効率的な運用を促す。	4.1/5.0	4.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						-	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	-	-	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	3.0	-	
2 温熱環境						-	0.35	2.5	1.00	2.5
2.1 室温制御					—	-	-	3.3	0.50	
1 室温		W			—	-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能					等級4相当	-	-	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式					—	-	-	1.0	0.30	
3 光・視環境						-	0.25	3.2	1.00	3.2
3.1 昼光利用					—	-	-	2.4	0.50	
1 昼光率					—	-	-	3.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					—	-	-	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			カーテンレール設置+庇	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度					—	-	-	-	-	
3.4 照明制御					—	-	-	-	-	
4 空気質環境						-	0.25	4.5	1.00	4.5
4.1 発生源対策					—	-	-	5.0	0.63	
1 化学汚染物質					使用材料はF☆☆☆☆と特記	-	-	5.0	1.00	
4.2 換気					—	-	-	3.6	0.38	
1 換気量					換気量の一番少ない住戸で0.73回(基準値の1.46倍)確保	-	-	5.0	0.33	
2 自然換気性能					—	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					各戸に光ファイバー配線可能となる設備配管設置	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		コンクリート打ち放しランデックスコート	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		ビニルクロス	2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		耐火二層管、塩ビライニング鋼管、給水用ポリエチレン管	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性						2.4	0.30	2.9	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり						-	-	2.8	0.50	
	1 階高のゆとり					1階:3.7m、2~4階:3.0m、5~10階:2.925m	4.0	-	4.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ						3.0	-	1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり						3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性						2.4	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性						1.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性						2.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	G	W		H		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上						3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー						-	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H	2 住戸設計UA値:34.12÷住戸数:54戸=住戸平均UA値:0.63<0.67	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用		W		H		2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		W		H	住宅部BEI=0.83、建物合計BEI=0.68	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価						-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H		-	-	-	-	
	集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H		3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル						-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		W	R			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水					節水コマ; 節水便器	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無						3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減						2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		W	R			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R			1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R			3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避						3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避						4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W				-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W			発泡剤HFO ODP=0,GWP=1を使用	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W			新冷媒R32	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境						-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		W			一般的建物と同等、LCCO2の排出量84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮						2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減			R			3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制			R			2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			R			1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮						2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
	1 騒音						3.0	1.00	-	-	
	2 振動						-	-	-	-	
	3 悪臭						-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制						1.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制						1.6	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						1.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0		○	○	－	○	○							
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		－		○		○	○	－	○	－	○			－
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0			○	○	－	○	－	○	－	－	○	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		－	－	－	－	－	－							
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		－	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		－	－	1.0	1.0	1.0	－	1.0	－	1.0	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	1.0	－	－	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		－	1.0	－	－	－	2.0	－	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－			－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		－	－	－	－	－	1.0	－	2.0	3.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		－	－	1.0	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		－	1.0	－	－	－	－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	－		－	－											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(0.5 窓の日射熱取得率(η)－

U値(W/m2K)	窓システム 4.0	屋根 2.0	外壁 2.0	床 2.0
住戸部システムU値	4.1	外皮UA値 0.6	η AC 1.3	η AH 0.2

屋光率 1.5%

自然換気有効開口i 3.3%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 6.0㎡ /人 病床 8.0㎡ /床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容i 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 10 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 10 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.93 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 31.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 2900 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 7% 建物緑化指数 17%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地i 47%	水平投影面積率 9%	地表面対策面積率 4%	舗装面積i 48%
---------	------------	-------------	-----------

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m ーf熱等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 80.0%	採光を満たす住戸数 80.0%
	通風を満たす教室数 80.0%	通風を満たす住戸数 80.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 ー 住宅 0.83 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品i ー エコマーク商品 ー 自治体指定の特定品目等 ー

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 5.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(i 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(i 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(i 0 地球温暖化係数(GWP) 675

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 175%棟間隔指標Rw 0.26

地表面対策面積率 8.0%	屋根面対策面積率 14.0%	外壁面対策面積率 0.0%
---------------	----------------	---------------

見付面積Sb 553㎡i越風向と直交する最大敷地幅Ws 26.08 m	基準高さHb 12.1 m
-------------------------------------	---------------

緑地 69㎡ 水面 ㎡	保水性対策面 ㎡	高反射対策面 ㎡	再帰性反射対策面 8㎡
-------------	----------	----------	-------------